

目 次

【1年前期・通年】

感性学
暮らしと環境
コンピュータ演習
英語コミュニケーション
外国語（中国語）
外国語（ハンガール）
外国語（日本語）
インターンシップ <通年科目>
純真ゼミナールⅠ
体育実技

【1年後期】

倫理学
文章表現法
ビジネスマナー
純真ゼミナールⅡ

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
感性学		平嶋 一臣		1	前期	講義	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング			CE1102	
		担当教員	平嶋 一臣					
幼	科目							
	施行規則に定める科目区分 又は事項等							
保	系列							
【キーワード】		【概要】						
1	感性	21世紀は「感性」の時代と言われる。では、なぜ今、このことが重要視されるに至ったのだろうか。そこには、昨今みられる「人間関係の希薄化」「自然体験の形骸化」による人間本来の「自由闊達な発想」力の低下や「人権感覚の欠如」が人間社会の閉塞感をもたらし、これを危惧している姿が浮かんでくる。「人間性回復」のための現状打破が急務なのだ。この世に生を受けたばかりの「ヒト」が、やがて「人」となり、さらに成長し、「人間」へと向かうその過程で、最も大切な学びは、人間的な感性の享受に基づく自己変革である。そのためにも、「感性」「感性教育」の解釈や学びは、曖昧なままでは済まされない。授業では、「感性」の意義、「感性教育」の方法について、できる限り具体的な場面を想定し、自らの五感で確かめる体験型に努める。						
2	感性教育							
3	気づき							
4	五感							
5	感覚協働（法）							
【到達目標】		1. 「感性」は、人間にとっての思考・行動の源泉であることに気づき、さらに新たな自分を創造することができる。 2. 人間関係づくりの基本であり前提となる自己の感性磨きに努めることができる。 3. 「感性学」を学び、日々新たな自己発見を行うと共に、他人・他物との共生について主体的に考えることができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
【成績評価の方法】								
成績指標	定期試験			課題レポート			合計	
評価割合（%）	70			30			100	
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		

評語	評価の基準	
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。	
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。	
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。	
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 毎時、課題レポート提出がある。これを添削し次回の授業前に返却する。返された提出レポートでの気づきや修正点を基に復習を行った後、本時の授業をスタートする。		
【教科書】		
【参考書・参考資料等】		
平嶋一臣 編・著『講義資料』 感性を考える会編『感性のひらめき』（紅書房）		
【関連科目】		
教育方法論・教育原理・教育心理学・幼児教育論		
【受講心得】		
事前学習のために、積極的に図書館を利用する。 毎時間、配布プリントを中心に講義を進める。基本的に欠席は認めない。やむを得ず欠席した場合は、すみやかに平嶋研究室（本館426）で課題を受け取り、次回授業の前日までに提出する。		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション・「感性」の時代がやってきた（含・「感性」に関するアンケート）		<学習内容>授業中の約束事を連絡した後、15回の授業の概要および事前・事後の学習の仕方について説明する。 なお、今後の参考とするために、「感性」についてのアンケートを行う。 <事前学習>15回分の講義要項（シラバス）に目を通し、質問内容をまとめておく。（0.5時間） <事後学習>15回の講義要項の概要を再確認しておく。（0.5時間）
2 「感性」についてのさまざまな研究事例を知る（感性を哲学する）		<学習内容>教育史における「感性」研究の変遷を知り、今後の「感性学」研究の在り方を、哲学（美学）的視点から捉え、今後の受講に、各自、より明確な方向性を持つ。 <事前学習>自分の考える「感性」を発表・説明できるよう、あらかじめ200字程度にまとめておく。（1時間） <事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）
3 義務教育期における「感性教育」の実態を知る（感性育ては可能か？）		<学習内容>そもそも、「感性」は教育できるものなのか、先天的なものなのか、幼児・児童・生徒の発達段階と教育との関係を、自らの幼・小・中期の体験・経験と重ねて考える。 <事前学習>あらかじめ、「教育方法」「教育原理」「教育心理学」に関する本を最低1冊は読み込んでおく。持っていない場合は図書館から借りる。（1時間） <事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）

4	幼児期における感性教育の重要性を考える (脳生理学的視点から)	<p><学習内容>「感性」は育つもの・育てられるものであることを前提に、幼児期および脳生理学的な見地から、幼児期における「感性教育」の重要性に気づく。</p> <p><事前学習>脳の構造図を基に、最下層感覚部から上層感覚部までの積み重ねの具体的な位置について調べておく。 (1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。 (1時間)</p>
5	絵画の世界に潜む作者および自分の感性を知る	<p><学習内容>モジリアーニの絵を題材に、目と耳の感覚を協働させ、作者の絵画表現を批評する。またミロの抽象画から、ファンタジック物語の創作も試みる。</p> <p><事前学習>図書館にある日本・世界の名画全集から一巻を選び、新たな「気づき」を報告できるよう準備する。 (1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。 (1時間)</p>
6	音楽の世界に潜む作者および自分の感性を知る	<p><学習内容>日本民謡に表われる地域性および日本と西洋の子守唄の成立過程について学び、その根本的な違いに気づくとともに、旋律・リズム・歌詞の関係を考える。</p> <p><事前学習>自分の故郷の民謡や、自分の聴いた子守唄について、紹介できるようにまとめておく。 (1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。 (1時間)</p>
7	書(線)・書のリズムに表われる、作者および自分の感性を考える(「書は人なり」について)	<p><学習内容>空海・最澄の往復書簡を題材に、二人の書跡の根本的な違いを学び、その後の交流の断絶という事実との関連性を考えることができる。</p> <p><事前学習>これまでの「習字」や「書道」の体験から、自分の「書」に対する印象を200字程度にまとめておく。 (1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。 (1時間)</p>
8	文学の中に表われる感性について学ぶ(小説・散文を中心に)	<p><学習内容>芥川龍之介作『鼻』を通し、若き日の作者が見抜き描き訴えたかった人間の自尊心や弱点を知るとともに、人は如何に生きるべきかについて、自分の考えを持つ。</p> <p><事前学習>芥川の短編集を読み、「人間」をキーワードに、その底流に流れる作者の訴えをまとめておく。 (1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。 (1時間)</p>
9	文学の中に表われる感性について学ぶ(短歌・俳句を中心に)	<p><学習内容>世界で最も短い詩と言われる伝統俳句・自由律俳句を読み、そこに潜む日本(人)独特の感性に気づくとともに、批評精神の基本を学ぶ。</p> <p><事前学習>芭蕉・蕪村・一茶・子規の俳句および新聞五紙の歌壇から、自分の印象に残った作品をメモしておく。 (1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。 (1時間)</p>

1 0	日本の伝統芸能（能）に表われる独特の感性について学ぶ	<p><学習内容>日本の伝統的な芸能である能『隅田川』に見られる、観世元雅独特の発想・脚本・演出と父・世阿弥の演出法との対立から、そこに潜む日本的感性について考える。</p> <p><事前学習>日本の伝統文化・伝統芸能について、そのジャンルを説明できるまでになっておく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
1 1	スポーツおよび芸術と感性の表われを知る（感性の諸様相について）	<p><学習内容>勝ちにこだわるスポーツマンの存在について再考し、今後、スポーツの在り方は如何にあるべきか、その原点として、「感性磨き」との関連性を考える。</p> <p><事前学習>昨今のスポーツマンの不祥事について、自分はどうか考えるのか、あらかじめ意見をまとめておく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
1 2	人間力・コミュニケーション能力と感性との関係を知る	<p><学習内容>「感性」の豊かさや不足は、現実の世界でどのような結果をもたらすのか、具体的な事例や経験を挙げ、実生活上の人間関係性との接点について考える。</p> <p><事前学習>過去の経験から、「感性」豊かな人の行動と結果、「感性」不足による失敗の事例をまとめておく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
1 3	人権感覚と感性育てとの相関を考える	<p><学習内容>古典落語『あたま山』の背後に潜む人間社会の暗部に気づく。また常の人権感覚維持には、自己についての冷静な振り返りと客観的な分析が求められることを知る。</p> <p><事前学習>過去に学んだ人権学習を想起し、特に印象に残っている授業について、発表できるようまとめておく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
1 4	情報化社会における感性の在り方を考える（主に映像・メディア・マスコミの態様を中心に）	<p><学習内容>インターネットと新聞の情報の基本的な違いに気づき、「感性」不足が実生活においてどのような結果につながるかについて考える。</p> <p><事前学習>ネット情報と新聞のリード記事・本文との比較資料をあらかじめ（図書館などで調べ）準備しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
1 5	人間の幸せについて考える（経済的貧国と精神的な豊かさについてブータン国を例に）	<p><学習内容>人間の幸せとは何なのか。幸せの原点を、経済的な豊かさ・精神的な豊かさの相関について考え、ブータン国やその国民性を基に、自分の幸福観・幸福論を持つ。</p> <p><事前学習>GNP・GDP・GNHの意味を再確認し、ブータン国の世界的評価について、多面的な角度から調べておく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の、添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>

16	定期試験	<p><学習内容>15回の授業を終え、「感性学」についての基本用語の理解および多分野において自分の考えを持つことができたか客観的に知る。</p> <p><事前学習>これまでに渡した15冊の資料集を振り返り、印象に残っている題材や資料を中心に復習しておく。 (1時間)</p> <p><事後学習>本日の試験を振り返り、『感性学』の授業受講後の自分の変化・成長についてまとめる。(1時間)</p>
----	------	--

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数	
暮らしと環境	飯塚 恭一郎	1	前期	講義 実技	選択	1	
	担当形態	複数	ナンバリング		CE1103		
	担当教員	飯塚恭一郎 砥上あゆみ 豊辻晴香 畠中智恵					
【キーワード】	【概要】						
1 環境	<ul style="list-style-type: none"> 日々の当たり前暮らし・生活を通して乳幼児が人として自立に向かうことを理解し、そこに身近な生活環境と広く地域の風土、生活文化が関わり合っていることを知る。 地域の自然環境や風土の特徴や、その歴史的、文化的価値を学び、そこに生きる人々がどのように環境と折り合いながら生活を営み子どもを育ててきたかを体感する。 						
2 風土							
3 生活							
4 歴史							
5 協同性							
【到達目標】							
1. 身近な地域の環境と他の地域の環境や生活文化を比較・検討することにより、生活環境が乳幼児の自立に色濃く反映されることを説明できる。 2. 地域の自然環境や資源、地産物等の特徴や利用方法などについて理解し、それが地域の生活と歴史にどのように根付いているかを説明できる。 3. 集団でおこなう学習活動により「集う・できる・わかる」を体感し、人と人との関係をコーディネートすることができる。							
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性	
【知識・理解・技能】							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							○
【思考・判断・表現】							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							○
【関心・意欲・態度】							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							
【成績評価の方法】							
成績指標	取り組み姿勢		レポート		合計		
評価割合 (%)	60		40		100		
【成績評価の基準】							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
評語	評価の基準						
S	演習の目的を理解した上で課題に真摯に取り組む姿があり、課題・提出物の内容が十分である。						
A	演習の目的を理解して課題に取り組む姿があり、課題・提出物の内容がおおむね十分である。						
B	演習課題に意欲的に取り組む姿があり、課題・提出物の内容が本人の力量相応である。						
C	演習課題に取り組む姿勢はあるが、課題・提出物が最低限の内容に留まっている。						
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】							
取り組み姿勢とレポートに関するコメントを返却する。							
【教科書】							
特に指定しない。適宜資料を配付する。							

【参考書・参考資料等】

特に指定しない。

【関連科目】

「子どもと環境」「保育内容（環境）」

【受講心得】

自ら積極的な態度で臨むこと。

【備考】**【学習項目】****学習内容、事前・事後学習（学習時間）****【学習内容】**

有明海の干潟体験と長崎・波佐見焼き陶器絵付け体験を通して、北部九州の自然と風土に触れ、人々の暮らしとそこに息づく生活文化と歴史を学ぶ。併せて、姉妹校・埼玉純真短大学生との体験学習とグループ活動を通して、同じ目標に向かって学びを深めている純真学園の系列学生同士の交流と友情を深める。そして、グループでの活動の持つ楽しさや人とのつながりを実感する。

①事前グループワークと発表 ※事前学習（3時間）

有明海の自然や小動物、産業あるいは波佐見焼の歴史、特徴など、この授業で取り扱う北部九州の自然や風土、産業について、小グループに分かれ、テーマに沿って調べ学習を行う。そして調べ学習の結果をレポートにまとめ、レポート画面をプロジェクターで投影して内容を発表し、学びを共有する。

取り扱うテーマ： 有明海の干潟と海苔、ムツゴロウ、ワラズボ、シオマネキ、ハゼグチ、
むっかけ
波佐見焼の歴史、波佐見焼陶器の特徴

②有明海干潟体験

「道の駅・鹿島」で、干潟体験をする。現地インストラクターの指導のもと「ミニ・ガタリンピック」に参加し、干潟の泥の中に入る体験をする。

③長崎・波佐見焼き絵付け体験

波佐見「くらわん館」で、陶器（マグカップ）の絵付け体験をする。また「くらわん館」の展示を見学し、波佐見焼の歴史と陶器作品を鑑賞する。

④埼玉純真短大学生との交流

宿泊とコミュニケーションワークを通して、同じ目標に向かって学びを深めている純真学園の系列学生同士の交流と友情を深める

【事後学習】

研修に関するレポートを作成して提出する。（1.5時間）

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
コンピュータ演習 (こども学科)		石橋 晃一	1	前期	演習	必修	2
		担当形態	単独		ナンバリング	CE1105	
		担当教員	石橋 晃一				
幼	科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目					必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	情報機器の操作					
保	系列						
【キーワード】		【概要】					
1	セキュリティ対策	情報通信技術の発展に伴い、コンピュータに代表されるような情報機器はビジネスのみならず家庭にも普及し、現代人には必要不可欠な道具のひとつとなった。この演習においては、本短大コンピュータ室の機器の使い方やアプリケーションソフトの具体的な操作を通し、情報の収集、整理、処理、伝達手法を学び、今後の各種レポート作成などに利用活用できるように。さらに、急激に普及し身近になったSNSの利用やネットワークセキュリティポリシーなど、演習を行いながら昨今の情報化社会で役立つ技術やリテラシーを身につけることを目的とする。					
2	コンピュータリテラシー						
3	コンピュータスキル						
4	インターネット・メール						
5	情報基礎						
【到達目標】		1. パーソナルコンピュータの基本的な操作ができる。 2. インターネット、SNSの知識を習得し、取り扱うファイル、画像など説明ができる。 3. Microsoft Office (Word、Excel、Powerpoint) ソフト等を使い活用できる。					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】							関連性
【知識・理解・技能】							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							
【思考・判断・表現】							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○					
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							
【関心・意欲・態度】							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							
【成績評価の方法】							
成績指標	定期試験の成績	授業課題作成提出内容	受講態度等	合計			
評価割合 (%)	60	20	20	100			
【成績評価の基準】							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	
評語	評価の基準						
S	授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。						
A	授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。						
B	授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。						
C	授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。						

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
試験終了後、合格点に満たない場合は同程度の再試験を行うものとする。		
【教科書】		
教科書は指定しない。		
【参考書・参考資料等】		
一部配布物あり、 適宜、指示する。		
【関連科目】		
【受講心得】		
遅刻・欠席をしないこと 授業中の内容は自身のノートにまとめること ※ノートは定期試験時は閲覧不可。 提出した課題制作のデータについては自身で授業中に保存し、定期試験時に閲覧可能とする。 講義中に学生の進捗状況を確認できるモニタ監視ができる教育支援システムを使用している。		
【備考】		
卒業必修、保育士課程必修、幼稚園教諭必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーションおよびコンピュータ基本操作		<学習内容>パソコンの起動、ログインからログアウト、電源シャットダウン（終了）まで。 現状スキルアンケートの実施。 学内LAN設定。 今後の流れ（自身の学内情報：学籍番号やパスワード確認） <事前学習>シラバス確認/自身の学内情報持参（0.5時間） <事後学習>講義内容を復習（0.5時間）
2 SNS利用上の注意およびICTセキュリティ		<学習内容>ネットリスクとSNS危機管理 学内ネットワーク、共有ディスクなどの使い方、学術情報。 文字入力（基本操作）とデータの保存 ※以後、配布物と合わせて、自身のリフィルなどに要点を書いてまとめること。 <事前学習>自身でパソコンの立ち上げログインから、文字の入力まで（0.5時間） <事後学習>配布資料と講義内容の要点をまとめる（0.5時間）
3 ネットを活用して調べる（ICT機器の活用）		<学習内容>ホームページの閲覧方法と、インターネット（ネットワーク）の仕組み ネット上の危機感と、情報リテラシーについて <事前学習>自身で行っているセキュリティ対策とコンピュータを活用して何が出来るかを考えておく（0.5時間） <事後学習>配布資料と講義内容の要点をまとめる（0.5時間）
4 パソコンのしくみを学ぶ		<学習内容>ファイルの保存、ファイル・フォルダの名前の付け方、管理方法。 USBメモリや外部ストレージ、クラウド、オンラインストレージなどの違い。 <事前学習>講義で使うパソコンの種類や、OS（オペレーションシステム）とは何か調べておく（5時間） <事後学習>配布資料と講義内容の要点をまとめる（0.5時間）
5 電子メール		<学習内容>メール設定（学内PC Office365 Outlook） メールの仕組みを学ぶ。課題メール送信（メールの送受信） <事前学習>自分の学内メールアドレス（パスワード等）を確認（0時間） <事後学習>最初は資料を見ながら、後に見ずにメールを送受信できるように復習すること（0.5時間）※授業内で課題メールが送信できなかった人は授業後にも送信すること。
6 印刷・レイアウト、ファイルのやり取り		<学習内容>ファイルの保存から、印刷カラープリント（プリンター）使い方 オンラインストレージ（OneDrive）パソコン及び、スマホデータの共有方法 <事前学習>講義2回目の、データの保存方法や保存先を復習（0.5時間） <事後学習>パソコンのデータの保存先、またデータの場所を理解する（探せる）（0.5時間）

7	グラフィックス- 情報メディア・画像加工について	<p><学習内容>パソコンの画像について（種類やファイル形式）パソコンのデータを学ぶ（容量や拡張子など）画像のサイズ変更、用途により画像の種類（形式）を変更（比較）する。</p> <p><事前学習>パソコンのデータファイルの見方（プロパティ）を調べておく（0.5時間）</p> <p><事後学習>講義で聞いた要点、データの種類や容量単位を復習すること（0.5時間）</p>
8	文書整形1（園だよりやクラスだより）	<p><学習内容>メモ帳を利用し、テキスト形式で文字入力。Microsoft Officeソフト Word（文章作成ソフト）基礎（文字入力、コピーペースト、均等割り付け、タブ設定など）</p> <p><事前学習>文字の入力（ローマ字など）や文字切り替え、キーボード操作ができていないこと（0.5時間）</p> <p><事後学習>簡単な操作など、パソコンに慣れ始めるころ、ショートカットキーを復習、習得すること（0.5時間）</p>
9	文書整形2（園だよりやクラスだより）	<p><学習内容>Wordへの画像（写真・イラスト）の差し込みや地図の作成、飾り、回り込み、印刷し提出、データ提出までショートカットキーを習得※資料配布</p> <p><事前学習>ショートカットキーが何も見ずに習得できていること（0.5時間）</p> <p><事後学習>これより毎回講義の課題は提出。データの保存から、所定の場所へ提出するスキルを復習。（0.5時間）</p>
10	文書整形3（画像を組み合わせる）	<p><学習内容>Wordへのテキストボックス、表組み、罫線、簡単な計算表によるレイアウト作業（画像・テキストを配置）</p> <p>ショートカットキー※小テストあり</p> <p><事前学習>Wordの立ち上げ方から、保存したデータの開き方、前回までの作業を復習しておくこと（0.5時間）</p> <p><事後学習>これまでのWordの課題を、自分一人で作業できるように、やり方などをノートにまとめ、実際に作業を復習しておく（1時間）</p>
11	データ処理（Excelを利用したスケジュール）	<p><学習内容>Excelグラフの作成（円グラフ、縦棒・横棒グラフ、行・列の切り替え、表示形式の変更）</p> <p>グラフなどを追加し、視覚的にわかりやすい表を作成する。</p> <p><事前学習>数学での表グラフの特性（X,Y軸、+, -の値）を復習しておく（0.5時間）</p> <p><事後学習>本日の講義課題の作業要点をノートにまとめ、自分だけで出来るように復習する（0.5時間）</p>
12	データ処理（クラス表など）	<p><学習内容>Excelを利用し表の作成、簡単なレイアウト作業（計算、平均値など）</p> <p>実習応用で名簿や、栄養管理票、統計表などを作成。</p> <p><事前学習>コピーペーストやショートカット、オートフィルの機能操作をマスターしておくこと（0.5時間）</p> <p><事後学習>本日の講義課題の作業要点をノートにまとめ、自分だけで出来るように復習する（0.5時間）</p>
13	データを組み合わせた文書の作成	<p><学習内容>Excelグラフの作成（円グラフ、縦棒・横棒グラフ、行・列の切り替え、表示形式の変更）</p> <p>グラフなどを追加し、視覚的にわかりやすい表を作成する。</p> <p><事前学習>数学での表グラフの特性（X,Y軸、+, -の値）を復習しておく（0.5時間）</p> <p><事後学習>本日の講義課題の作業要点をノートにまとめ、自分だけで出来るように復習する（0.5時間）</p>
14	プレゼンテーション	<p><学習内容>Microsoft Officeソフト PowerPoint（プレゼンテーションソフト）基礎（文字や写真、イラストの配置）</p> <p>見栄えの良いカトラリー（課題）を作成する。</p> <p><事前学習>Word, Excelへの画像の貼り付け方、テキストボックスの使い方を復習しておく（0.5時間）</p> <p><事後学習>本日の講義の作業要点をノートにまとめ、自分だけで出来るように復習する（0.5時間）</p>
15	試験対策（総復習）	<p><学習内容>統括実習（WordへExcel表データを組み込むなど）</p> <p><事前学習>全ての配布物、講義の要点、ノートをまとめる。※欠席などで不足が無いかなど（0.5時間）</p> <p><事後学習>※これまでの授業で提出した課題のデータをまとめる。わからない個所などを質問し、試験に向けて復習する。（2時間）</p>

16	試験		
----	----	--	--

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
英語コミュニケーション		ストイコビッチ ボジダ		1	前期	演習	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング		CE1106		
		担当教員	ストイコビッチ ボジダ					

幼	科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目		必修
	科目区分 又は事項等	外国語コミュニケーション		
保	系列			

【キーワード】	【概要】
1 英語で考える	積極的にクラスアクティビティに参加し、簡単な英会話から始めることにより、コミュニケーションスキルの向上を目指します。あなたにとって興味のある分野について、相手に英語で伝えることができれば、世界が広がります。さあ、楽しみながら学びましょう。
2 英語で話す	
3 新しく習った単語を使って文章を書く	
4 発音を意識する	
5 間違いを恐れない	

【到達目標】
1. 英語でのコミュニケーションを楽しむことができる。
2. 英語に自信を持つことができる。
3. 英語で単純な会話ができる。

【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】	関連性
【知識・理解・技能】	
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。	
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。	
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。	
【思考・判断・表現】	
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。	○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。	
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。	
【関心・意欲・態度】	
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。	
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。	
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。	

【成績評価の方法】				
成績指標	発表	課題提出	定期試験	合計
評価割合 (%)	30	30	40	100

【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満たした成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。					
A	授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。					
B	授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。					
C	授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。					

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 課題、試験後に解答の解説をする。		
【教科書】 制作した教材を使用		
【参考書・参考資料等】 授業内で配布されるプリント等		
【関連科目】		
【受講心得】 授業内においては、常に英語で話すこと。日本語は許可した場合のみとする。失敗を恐れず、「失敗は成功のもと」という気持ちを持って臨むこと。		
【備考】 卒業選択必修、保育士課程必修、幼稚園教諭必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 自己紹介（お互いを知る） Getting to know each other		<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・相手の自己紹介に対する返事、反応 ・クラスで役立つフレーズ（便利な言い回し） 《事前学習》シラバスを読んでくる（30分程度） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）
2 家族について Talking about FAMILY		<ul style="list-style-type: none"> ・家族や親せきの紹介の仕方 ・家系図の作成 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）
3 色と服装について Talking about COLOR and CLOTHES		<ul style="list-style-type: none"> ・好きな色を発表 ・人がどんな服装をしているか ・相手のファッションの褒め方 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）
4 仕事の動作 WORK ACTIVITIES		<ul style="list-style-type: none"> ・現在完了（present perfect）や単純過去時制（simple past tense） ・can and can't できる・できないの使い方 ・経験について語る 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）
5 数字について Talking about NUMBERS.		<ul style="list-style-type: none"> ・序数や基数について確認する ・電話番号や住所の伝え方、聞き方、確認の仕方（警察など緊急連絡先） 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）
6 からだについて Talking about BODY		<ul style="list-style-type: none"> ・からだの部分・部位 ・病気と健康について ・健康である為のアドバイス（伝え方） 《事前学習》前回習った所を見直す（週1時間） 《事後学習》分からない言葉があれば辞書で調べる（週1時間）

7	スポーツについて Talking about SPORTS	<ul style="list-style-type: none"> ・道具を使つてのスポーツの説明 ・スポーツの説明 ・運動の能力 ・体調 ≪事前学習≫前回習つた所を見直す(週1時間) ≪事後学習≫分からない言葉があれば辞書で調べる(週1時間)
8	時間について Talking about TIME.	<ul style="list-style-type: none"> ・時間の聞き方、答え方 ・日常生活の説明 ・何かに対する頻度の度合い ≪事前学習≫前回習つた所を見直す(週1時間) ≪事後学習≫分からない言葉があれば辞書で調べる(週1時間)
9	食べ物・飲み物について Talking about FOODS and DRINKS.	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な食べ物と飲み物 ・好きな食べ物・飲み物 ・ファーストフード店(レストラン)での注文の仕方 ≪事前学習≫前回習つた所を見直す(週1時間) ≪事後学習≫分からない言葉があれば辞書で調べる(週1時間)
10	カレンダーについて Talking about the CALENDAR	<ul style="list-style-type: none"> ・月と曜日 ・大事な行事を共有(話し合い) ・世界の様々な行事 ≪事前学習≫前回習つた所を見直す(週1時間) ≪事後学習≫分からない言葉があれば辞書で調べる(週1時間)
11	動物について Talking about ANIMALS.	<ul style="list-style-type: none"> ・海や牧場、野生動物の名前 ・比較級と最上級 ・形容 ≪事前学習≫前回習つた所を見直す(週1時間) ≪事後学習≫分からない言葉があれば辞書で調べる(週1時間)
12	世界各国について AROUND THE WORLD(世界一周)	<ul style="list-style-type: none"> ・国籍や言語 ・世界遺産 ≪事前学習≫前回習つた所を見直す(週1時間) ≪事後学習≫分からない言葉があれば辞書で調べる(週1時間)
13	果物と野菜について Talking about FRUITS and VEGETABLES	<ul style="list-style-type: none"> ・一般的な果物と野菜の名前 ・原産地について ・ショッピングリストを作ってみよう ≪事前学習≫前回習つた所を見直す(週1時間) ≪事後学習≫分からない言葉があれば辞書で調べる(週1時間)
14	街の風景 AROUND THE TOWN	<ul style="list-style-type: none"> ・道の尋ね方 ・案内の仕方(徒歩の場合) ≪事前学習≫前回習つた所を見直す(週1時間) ≪事後学習≫分からない言葉があれば辞書で調べる(週1時間)
15	最終準備と課題発表 Final Preparation & Project Presentation	レビューと統合 ≪事前学習≫前回習つた所を見直す(週1時間) ≪事後学習≫分からない言葉があれば辞書で調べる(週1時間)

1 6	Final Exam		
-----	------------	--	--

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
外国語（中国語）		中原 由木子		1	前期	演習	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング		CE1107		
		担当教員	中原 由木子					
幼	科目							
	施行規則に定める科目区分 又は事項等							
保	系列							
【キーワード】		【概要】						
1	コミュニケーション	この授業は初めて中国語を学習する学生を対象とする。発音編では、声調、母音、子音などを学ぶ。発音練習を繰り返し行うことにより、発音の基礎を身に着ける。本篇では、日常的な会話を中心にして、基本的な文法項目、語彙などを学ぶ。問題練習を通して学習事項の定着を図る。さらに、視聴覚資料を使って、中国や中国文化に関する理解を深める。						
2	文法							
3	声調							
4	挨拶							
5	中国文化							
【到達目標】		1. 中国語の母音、子音及び声調の正しい発音ができる。 2. 中国語で簡単な挨拶ができる。 3. 初級の中国語文型表現を説明できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
【成績評価の方法】								
成績指標	定期試験		小テスト		出席		合計	
評価割合（%）	80		10		10		100	
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E		F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績		受験資格なし（出席回数不足）	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0		0	
評語	評価の基準							
S	授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。							
A	授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。							
B	授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。							
C	授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。							

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
試験終了後、模範解答とコメントを返却するので確認すること。		
【教科書】		
『新訂 開門！中国語』 小池一郎ら（朝日出版社）		
【参考書・参考資料等】		
『チャレンジ！一年生の中国語』 南勇著 杉野元子監修 朝日出版社		
【関連科目】		
【受講心得】		
<ul style="list-style-type: none"> ・ テキストの予習・復習を怠けないこと ・ 授業中に私語をしないこと 		
【備考】		
卒業選択必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 1. 中国概況 2. 発音(1) 声調、母音、複合母音		<学習内容>中国概況及び声調、母音、複合母音について説明し、発音練習を行う。 <事前学習>事前にシラバスに目を通しておく。(0.5時間) <事後学習>声調、母音、複合母音を復習する。(1時間)
2 発音(2) 鼻母音、子音、声調の変化		<学習内容>鼻母音、子音、声調の変化について説明し、発音練習を行う。 <事前学習>事前に学習内容をテキストの該当ページで確認しておく(0.5時間) <事後学習>鼻母音、子音、声調の変化を復習する(1時間)
3 簡単な挨拶、名前の尋ね方・言い方		<学習内容>簡単な挨拶、名前の尋ね方・言い方について説明し、発音練習を行う。 <事前学習>事前に学習内容をテキストの該当ページで確認しておく(0.5時間) <事後学習>簡単な挨拶、名前の尋ね方・言い方を復習する(1時間)
4 人称代名詞、名詞と「是」を用いる文		<学習内容>人称代名詞、名詞と「是」を用いる文について説明し、発音練習を行う。 <事前学習>事前に学習内容をテキストの該当ページで確認しておく(0.5時間) <事後学習>人称代名詞、名詞と「是」を用いる文を復習する(1時間)
5 動詞述語文、一般疑問文と省略疑問文		<学習内容>動詞述語文、一般疑問文と省略疑問文について説明し、発音練習を行う。 <事前学習>事前に学習内容をテキストの該当ページで確認しておく(0.5時間) <事後学習>動詞述語文、一般疑問文と省略疑問文を復習する(1時間)
6 形容詞述語文、反復疑問文		<学習内容>鼻母音、子音、声調の変化について説明し、発音練習を行う。 <事前学習>事前に学習内容をテキストの該当ページで確認しておく(0.5時間) <事後学習>鼻母音、子音、声調の変化を復習する(1時間)

7	指示代名詞、疑問詞疑問文	<p><学習内容>指示代名詞、疑問詞疑問文について説明し、発音練習を行う。</p> <p><事前学習>事前に学習内容をテキストの該当ページで確認しておく(0.5時間)</p> <p><事後学習>指示代名詞、疑問詞疑問文を復習する(1時間)</p>
8	所有を表す“有”	<p><学習内容>所有を表す“有”について説明し、発音練習を行う。</p> <p><事前学習>事前に学習内容をテキストの該当ページで確認しておく(0.5時間)</p> <p><事後学習>所有を表す“有”を復習する(1時間)</p>
9	家族の呼び方、数量詞、助数詞	<p><学習内容>家族の呼び方、数量詞、助数詞について説明し、発音練習を行う。</p> <p><事前学習>事前に学習内容をテキストの該当ページで確認しておく(0.5時間)</p> <p><事後学習>家族の呼び方、数量詞、助数詞を復習する(1時間)</p>
10	存在の表現“在”と“有”、方位詞	<p><学習内容>存在の表現“在”と“有”、方位詞について説明し、発音練習を行う。</p> <p><事前学習>事前に学習内容をテキストの該当ページで確認しておく(0.5時間)</p> <p><事後学習>存在の表現“在”と“有”、方位詞を復習する(1時間)</p>
11	年月日、時刻の言い方、選択疑問文	<p><学習内容>年月日、時刻の言い方、選択疑問文について説明し、発音練習を行う。</p> <p><事前学習>事前に学習内容をテキストの該当ページで確認しておく(0.5時間)</p> <p><事後学習>年月日、時刻の言い方、選択疑問文を復習する(1時間)</p>
12	願望・義務を表す助動詞	<p><学習内容>鼻母音、子音、声調の変化について説明し、発音練習を行う。</p> <p><事前学習>事前に学習内容をテキストの該当ページで確認しておく(0.5時間)</p> <p><事後学習>鼻母音、子音、声調の変化を復習する(1時間)</p>
13	連動文、動詞の重ね型	<p><学習内容>連動文、動詞の重ね型について説明し、発音練習を行う。</p> <p><事前学習>事前に学習内容をテキストの該当ページで確認しておく(0.5時間)</p> <p><事後学習>連動文、動詞の重ね型を復習する(1時間)</p>
14	能願動詞、二重目的語	<p><学習内容>能願動詞、二重目的語について説明し、発音練習を行う。</p> <p><事前学習>事前に学習内容をテキストの該当ページで確認しておく(0.5時間)</p> <p><事後学習>能願動詞、二重目的語を復習する(1時間)</p>
15	自己紹介文の書き方	<p><学習内容>自己紹介文の書き方について説明し、発音練習を行う。</p> <p><事前学習>事前に学習内容をテキストの該当ページで確認しておく(0.5時間)</p> <p><事後学習>自己紹介文の書き方を復習する(1時間)</p>

16	定期試験		
----	------	--	--

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
外国語（ハングル）		金 京姫		1	前期	演習	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング		CE1108		
		担当教員	金 京姫					
幼	科 目	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系 列							
【キーワード】		【概要】						
1	ハングルの理解	韓国語の言語能力及び韓国文化への理解と、国際化に対応できるコミュニケーション能力の育成を目的とする。						
2	語彙の暗記							
3	自己紹介							
4	コミュニケーション							
5	異文化理解							
【到達目標】		1. 韓国語の文字の習得と文字の正しい発音ができる。 2. 自己紹介、簡単な意思伝達ができる。 3. 韓国の社会や文化について理解し、説明できる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
【成績評価の方法】								
成績指標	定期試験の成績	小テスト	受講態度等	合計				
評価割合（％）	40	30	30	100				
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし（出席回数不足）		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。							
A	授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。							
B	授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。							
C	授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。							

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 授業の中で課題の解説等を行う。		
【教科書】 『スマート韓国語』 著者名：金 京姫・金 成妍・姜 信一 出版社：白帝社（2014年）		
【参考書・参考資料等】 韓日、日韓辞書		
【関連科目】		
【受講心得】 1. 遅刻・欠席をしないこと。 2. 予習復習に徹底すること。		
【備考】 卒業選択必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 第1部 ハングルの概要、基本母音字		<学習内容>本授業の進め方及び韓国語の概要について説明する。ハングルの「あ行」「や行」、ハングルの仕組み、母音字を覚える。 <事前学習>事前にシラバスに目を通しておく。（10分） <事後学習>母音、半母音字を覚える。（1時間）
2 基本子音字 I		<学習内容>文化授業① 母音、半母音字の復習をする。基本子音字を覚える。 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。（20分） <事後学習>基本子音字を暗記する。（1時間）
3 基本子音字 II		<学習内容>文化授業② ハングルの濁り音を理解し、語彙の発音練習と暗唱。 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。（20分） <事後学習>音読練習と単語を覚える。（1時間）
4 激音と濃音		<学習内容>文化授業③ 激音と濃音の発音要領と単語を覚える。 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。（20分） <事後学習>激音と濃音の語彙を覚える。（1時間）
5 合成母音字		<学習内容>文化授業④ ハングルの「わ行」：合成母音を覚える。 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。（20分） <事後学習>合成母音の語彙と覚える。（1時間）
6 終音（パッチム）		<学習内容>文化授業⑤ ハングルの「ん」と「っ」、パッチムの説明と発音練習。 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。（20分） <事後学習>パッチムの発音練習と語彙を覚える。（1時間）

7	文字の復習	<p><学習内容>文化授業⑥ パッチムの発音練習と復習、発音変化について説明する。 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。(20分) <事後学習>文章の読みができるように練習。(1時間)</p>
8	第2部、第6課私は木村と言います。	<p><学習内容>文化授業⑦ かしこまった丁寧な表現、自己紹介の文章の音読練習と簡単な文法事項を説明する。 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。(20分) <事後学習>6課の練習問題を解く。(1時間)</p>
9	第6課私は木村と言います。	<p><学習内容>文化授業⑧ 6課、練習問題の答え合わせと自己紹介文の練習 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。(20分) <事後学習>自己紹介文の暗唱すること。(1時間)</p>
10	第7課 スープは左ではありません。	<p><学習内容>文化授業⑨ かしこまった否定表現、第7課、本文の音読練習と文法事項の説明 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。(20分) <事後学習>練習問題を解いてくる。(1時間)</p>
11	第7課 スープは左ではありません。	<p><学習内容>文化授業⑩ 7課、練習問題の答え合わせと本文の暗唱 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。(20分) <事後学習>7課の本文会話を暗唱すること。(1時間)</p>
12	第8課 おじさんではありません。	<p><学習内容>文化授業⑪ 8課、本文の音読練習と文法事項の説明。 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。(20分) <事後学習>8課、練習問題を解いてくること。(1時間)</p>
13	第8課 おじさんではありません。	<p><学習内容>文化授業⑫ 8課、練習問題の答え合わせと本文の暗唱。 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。(20分) <事後学習>8課、本文の暗唱。(1時間)</p>
14	自己紹介	<p><学習内容>文化授業⑬ 各自、自己紹介文を作る。 <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。(20分) <事後学習>各自作自己紹介文を暗唱すること。(1時間)</p>
15	総復習と会話テスト	<p><学習内容>文化授業⑭、自己紹介の発表とこれまでの授業のまとめ <事前学習>前の授業で配布された文化授業の資料に目を通しておく。(20分) <事後学習>期末試験に備えること。(3時間)</p>

1 6	期末試験		
-----	------	--	--

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
外国語（日本語）		平嶋 一臣		1	前期	演習	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング		CE1109		
		担当教員	平嶋 一臣					
幼	科目	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系列							
【キーワード】		【概要】						
1	言葉	日本語の「話し言葉」と「書き言葉」を明確に区別し、文法的に正しく美しい日本語の習得を目的とする。また、日本語作文における、文型・句読点・段落等の構成について理解し、文章作成の基礎・基本を学ぶ。						
2	読む							
3	書く							
4	聴く							
5	話す							
【到達目標】		1. 日本語の基本的な用語を使い、自分の伝えたいことを文章化することができる。 2. 「読む」「書く」「聴く」「話す」の基本を総合的に向上させ、正しい日本語で基本的な文章を書くことができる。 3. 文章作成の基本を踏まえ、1200字程度の論説文を書くことができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
【成績評価の方法】								
成績指標	定期試験	毎回の課題提出と内容	受講態度	合計				
評価割合（％）	40	30	30	100				
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		
評語	評価の基準							
S	授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。							
A	授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。							
B	授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。							
C	授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。							

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
毎時間課題レポートを提出する。次週の初めに添削した課題を返却し、その反省点に立ち本時のスタートとする。		
【教科書】		
『留学生の為の論理的な文章の書き方』 二通信子・佐藤不二子 平嶋 一臣 著・編『講義資料』より 必要に応じてプリント・配布する。		
【参考書・参考資料等】		
授業中に指示する		
【関連科目】		
「文章表現法」		
【受講心得】		
疑問点は直ちにその場で質問し解決できるように努めること。また、積極的に授業に参加し、課題等の提出期限を守ること。		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・<事後学習>（学習時間）
1 ひらがなの成り立ち、文章の中での使われ方を知る		<学習内容>ひらがな・カタカナの成り立ちを、漢字との関係から学び、文章の中での使い方の幅を広げる。 <事前学習>（1時間）：シラバスや授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおくこと。 <事後学習>（1時間）：授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。
2 日本語の特質①		<学習内容>主語と述語を中心に文章の様々な組み立て方を学び、実際に身近な出来事をテーマに文章化する。 <事前学習>（1時間）：授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおくこと。 <事後学習>（1時間）：授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。
3 日本語の特質②		<学習内容>形容詞・形容動詞・助動詞・助詞の使われ方を、様々な文例集から学び、最近の出来事をテーマに文章化する。 <事前学習>（1時間）：授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおくこと。 <事後学習>（1時間）：授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。
4 日本文化と言語や文章の成り立ち①		<学習内容>日本独自の言語表現である和語（大和言葉）の様々な使われ方を知る。 <事前学習>（1時間）：授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおくこと。 <事後学習>（1時間）：授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。
5 日本文化と言語や文章の成り立ち②		<学習内容、実際の生活を想定し、和語（大和言葉）の正しい使い方を学ぶ。 <事前学習>（1時間）：授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおくこと。 <事後学習>（1時間）：授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。
6 新聞のコラムを読む①原稿を書く際の約束		<学習内容>子ども新聞のコラムを教材に、日本語の組立て方や原稿を書く際の注意点を学ぶ。 <事前学習>（1時間）：授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおくこと。 <事後学習>（1時間）：授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。

7	新聞のコラムを読む②組み立て方	<p><学習内容>子ども新聞のコラムを教材に、日本語の組立て方や分かり易く伝えるための段落について学ぶ。</p> <p><事前学習> (1時間):授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習> (1時間):授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p>
8	コラムや社説を要約する	<p><学習内容>新聞の社説やコラムを教材に、筆者の伝えたいことや要点をまとめる。</p> <p><事前学習> (1時間):授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習> (1時間):授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p>
9	レポートを書く (事実・参考意見・資料)	<p><学習内容>最近の出来事を取り上げ、自分としての意見を主張する文章を書く。</p> <p><事前学習> (1時間):授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習> (1時間):授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p>
10	レポートを再考する (文型、句読点、段落ほか)	<p><学習内容>前時で書き上げた文章を、グループディスカッションし、分かり易く主張がはっきりした文章に練り上げる。</p> <p><事前学習> (1時間):授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習> (1時間):授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p>
11	話し言葉と書き言葉について①	<p><学習内容>「話し言葉」と「書き言葉」の違いを具体例を基に学び、その使い分けの大切さを知る。</p> <p><事前学習> (1時間):授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習> (1時間):授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p>
12	話し言葉と書き言葉について②	<p><学習内容>これまで自分が書いた文章の中で、「話し言葉」で書いている例を挙げ、これを正しい文章に書き直す。</p> <p><事前学習> (1時間):授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習> (1時間):授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p>
13	コラムや社説に対して自分の考えをまとめる①	<p><学習内容>再度、新聞の社説やコラムを取り上げ、これについての自分の意見をまとめ文章化する。</p> <p><事前学習> (1時間):授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習> (1時間):授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p>
14	コラムや社説に対して自分の考えをまとめる②	<p><学習内容>再度、新聞の社説やコラムを取り上げ、自分の意見をまとめグループ間で発表し批評する。</p> <p><事前学習> (1時間):授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習> (1時間):授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p>

15	これまでの学びについて要点を絞り発表する		<p><学習内容>これまでの学びの集大成として、『日本語を学んで』をテーマに1200字にまとめ発表する。</p> <p><事前学習> (1時間) :授業に必要な参考図書に目を通し、準備も入れて1時間は授業と関連のある領域の参考書を読んでおく。</p> <p><事後学習> (1時間) :授業全般の復習を行い、理解できなかった箇所を質問する準備を行うこと。</p>
16	試験		15回の学びの成果を客観視するための試験

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
インターンシップ		松藤 泰代		1	通年	実習	選択	2
		担当形態	複数	ナンバリング			CE1110	
		担当教員	松藤 泰代 青沼 典子					
幼	科目	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系列							
【キーワード】		【概要】						
1	職業人	本実習は、自分の専門、将来のキャリアに関連した施設や企業等において、栄養士や保育士または、社員の方からの指導のもと、各施設や企業で実際に就業体験を行うものである。就業体験を通じて職業人・社会人として何が必要かを知り、自分の将来の方向性を明確に意識することを目的とする。受け入れ施設・企業等での就業体験と、学内での事前・事後の学習より構成される。						
2	就業体験							
3	社会人							
4	自己管理							
5	責任感							
【到達目標】		1. 将来の職業について関心を持ち、働くことの意味とイメージを持つことができる。 2. 自己管理の重要性を理解し、社会人としてのマナーや責任感を身につけることができる。 3. 仕事を円滑に進めるために必要なコミュニケーション能力を身につけることができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								○
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								○
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								○
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								○
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								○
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								○
【成績評価の方法】								
成績指標	実習施設からの評価		取り組み姿勢		研修日誌等の提出物		合計	
評価割合 (%)	50		25		25		100	
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E		F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績		受験資格なし (出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0		0	
評語	評価の基準							
S	積極的に取り組み内容を十分に理解しており、提出物の記述内容が的確である。							
A	取り組み内容を十分に理解しており、提出物の記述内容が十分である。							
B	取組み内容を総じて理解しているが、提出物の記述内容が不十分である。							
C	取組み内容の概要を理解しており、提出物の記述内容が最低限の評価が可能である。							

【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】			
提出物等は、内容に不備がある場合は添削後に再提出、返却を繰り返す。			
【教科書】			
特に指定しない。適宜資料を配布する。			
【参考書・参考資料等】			
【関連科目】			
「ビジネスマナー」			
【受講心得】			
明確な目的と高い意欲を持っていること。「就業」の実習であることを理解し責任を持って行動する。			
【備考】			
インターンシップは、純真レストラン及び純真保育園など学内施設での就業体験を含む。			
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）	
1	松藤宅間下村	<学習内容> インターンシップは、各企業および施設において、専門職としての「就業体験」の実習を行うために各研修プログラムが計画されています。学内では、事前に企業研究や研修中から研修終了後の一連の流れを説明します。 <事前学習> 施設の概要および実習内容等の基礎的知識を予習しておくこと。（1.0時間） <事後学習> 実習に向けての内容の復習しておくこと。（1.0時間）	
2			事前指導①
3			事前指導①
4	実習先の指導者	<学習内容>各企業および施設において、専門職としての「就業体験」の実習を行う。 質の高い知識や技術・技能とともに、社会人としての基本など各研修プログラムの実施。 <事前学習> 実習施設において実習内容の予習をしておくこと。（1.0時間） <事後学習>実習内容の復習をしておくこと。（1.0時間）	
5			・企業・施設の概要および特質
6			・社会人としての基本的業務
7			マナー・コミュニケーション能力
8			・専門業務
9			専門的知識
10			専門的技術・技能
11			・その他
12			*就業体験は、各企業・施設の研修プログラムに沿って行う。
13			*実習時間は1週間
14	松藤宅間下村	<学習内用>就業体験」の事後指導及び報告会を実施します。 <事前学習>就業体験のまとめをしておくこと。（1.0時間） <事後学習>学んだことの復習をしておくこと。（1.0時間）	
15			実習報告会

科目名		担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
純真ゼミナールⅠ		都築 廣久	1	前期	演習	必修	1
		担当形態	複数		ナンバリング	CE1112	
		担当教員	福田 庸之助、食物栄養学科教員全員、こども学科教員全員、保坂 真紀、外部講師				
幼	科目						
	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系列						
【キーワード】		【概要】					
1	学園訓	本学は、時代の要望に即応し、高い知性と豊かな情操をもって、社会、家庭に歓迎され、敬愛される良識ある人材を育成する事を目的として設立された。この設立趣旨を理解するためには、建学の精神の中身をお互いに共有することが重要である。そこで本演習では、本学がかかげる「気品」、「知性」、「奉仕」の建学の精神を具現化していくための諸テーマを中心にして、全人格形成の涵養を図ることを目標とする。					
2	建学の精神						
3	気品						
4	知性						
5	奉仕						
【到達目標】		1. テーブルマナーにより「気品」を醸成させていくことができる。 2. 有識者の講演の聴講などにより「知性」を練磨させていくことができる。 3. 学士基礎力講座により「知性」を練磨させていくことができる。					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】							関連性
【知識・理解・技能】							
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。							
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。							
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。							
【思考・判断・表現】							
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。							○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。							
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。							
【関心・意欲・態度】							
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。							
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。							
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。							
【成績評価の方法】							
成績指標	取り組み姿勢		課題・提出物			合計	
評価割合 (%)	60		40			100	
【成績評価の基準】							
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下		
評語	S	A	B	C	E	F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0	

評語	評価の基準	
S	各講座に極めて積極的に取り組み、課題・提出物にも必要な内容を的確に記述している。	
A	各講座に積極的に取り組み、課題・提出物に必要な内容を十分に記述している。	
B	各講座に積極的に取り組んでいるが、課題・提出物に必要な内容の記述が不十分である。	
C	各講座に取り組んでいるが、課題・提出物が必要最低限の内容の記述である。	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 取り組み姿勢と課題・提出物に関するコメントを返却する。		
【教科書】 特に指定しない。適宜資料を配付する。		
【参考書・参考資料等】 特に指定しない。		
【関連科目】 「純真ゼミナールⅡ」		
【受講心得】 主に班単位で受講するため、お互いに協力して、自ら積極的に活動に取り組むこと。		
【備考】 卒業必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 学長講話 ～学園訓・建学の精神について～	福田	<学習内容>本学園の学園訓、建学の精神である「気品」「知性」「奉仕」を紹介するとともに、学園を設立した福田昌子女史の想いについても触れる。 <事前学習>本学園の学園訓について調べておくこと。（0.5時間） <事後学習>学長講話の内容をレポートにまとめて提出すること。（1.0時間）
2 知性を磨く講演会 ～博多学～	平嶋	<学習内容>純真学園の位置する大橋・福岡・博多の歴史・地理・文化を知るとともに、郷土に愛着を持つ。 <事前学習>福岡・博多の歴史について、図書館などで事前に調べておく。大橋・筑紫丘周辺の神社仏閣を中心に散策する。（2.0時間） <事後学習>授業で紹介した以外の名所旧跡についても、時間を見つけて散策し、さらに郷土への愛着を深める。（4.0時間）
3 キャリアガイダンス（1） ～外部講師講話～	松藤・外部講師	<学習内容>キャリアガイダンスの第一回目であるため、就職活動の基本である「就職活動支援」と「労働法」を中心に説明する。 <事前学習>就職ガイドブックに目を通しておくこと。（0.5時間） <事後学習>就職活動の基本に関する概要を復習しておくこと。（0.5時間）
4 日本語検定講座 ～日本語検定試験対策講座～	都築	<学習内容>6月に受検する特定非営利活動法人日本語検定委員会主催の日本語検定試験4級の概要を解説するとともに、練習問題に取り組む。 <事前学習>日本語検定試験4級について調べておくこと。（0.5時間） <事後学習>当日取り組んだ練習問題を復習しておくこと。（1.0時間）
5 ジェンダー ～お姫様とジェンダー～	石橋	<学習内容>お姫様（白雪姫、シンデレラ、眠り姫など）で描かれる女性たちは王子様との出会いによってハッピーエンドを迎える。このような女性像に対してそれは文化的社会的につくられた見方だ（ジェンダー）という批判もある。このジェンダー観について考える。 <事前学習>白雪姫、シンデレラ、眠り姫の物語を読んで、そこで描かれる女性像について考えておくこと。（1.0時間） <事後学習>授業で配付した資料を参考にジェンダーについて考えること。（1.0時間）

6	世界の宗教 ～キリスト教とイスラム教～	石橋	<p><学習内容>宗教の誕生と必要性について考え、世界宗教としてのキリスト教とイスラム教について考える。またこれらの教えの始まりや内容について概説する。</p> <p><事前学習>キリスト教とイスラム教について調べてくること。(1.0時間)</p> <p><事後学習>授業で配付した資料を参考にキリスト教とイスラム教について考えること。(1.0時間)</p>
7	ペン習字 (1)	平嶋	<p><学習内容>「美しい文字」と言われる漢字の特徴・ひらがな・片仮名の50音をリズム良く纏まり良く書けるようになる。</p> <p><事前学習>自分にとってまとまりがつきにくい、苦手な漢字・片仮名・ひらがなについて、あらかじめメモしておく。(1.0時間)</p> <p><事後学習>自分にとってまとめ方が苦手な漢字・ひらがな・片仮名を再度丁寧に練習しておく。(1.0時間)</p>
8	ペン習字 (2)	平嶋	<p><学習内容>漢字・ひらがな・片仮名の混じった文章のまとめ方を学び、実生活での必要な文面が書けるようになる。(挨拶文・年賀状その他)。</p> <p><事前学習>季節の挨拶文・年賀状など、実物または、図書館での資料を調べ、その基本形をまとめておく。(1.0時間)</p> <p><事後学習>自分にとって苦手な文字について何度も書き直し練習をしておく。(1.0時間)</p>
9	日本語検定試験	都築	<p><学習内容>6月に特定非営利活動法人日本語検定委員会主催の日本語検定試験4級(漢字、表記、敬語、言葉の意味、語彙、文法)を受検する。</p> <p><事前学習>日本語検定4級の過去問題とを調べておくこと。(1.0時間)</p> <p><事後学習>試験問題を振り返り復習をしておくこと。(1.0時間)</p>
10	学士基礎力講座 (1)	都築	<p><学習内容>敬語(尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語)の種類と働き、言い表し方、複数の意味を持つ敬語、適切な遣い方、敬語の誤用について学ぶ。</p> <p><事前学習>敬語の種類を調べておくこと。(0.5時間)</p> <p><事後学習>場面に応じた敬語の正しい遣い方を復習しておくこと。(0.5時間)</p>
11	学士基礎力講座 (2)	都築	<p><学習内容>可能動詞、受け身と使役、接続語、言葉の関係、類義語、対義語、多義語、慣用句、同音異義語、四字熟語について学ぶ。</p> <p><事前学習>類義語、対義語、同音異義語、四字熟語について調べておくこと。(0.5時間)</p> <p><事後学習>当日取り組んだ練習問題を復習しておくこと。(0.5時間)</p>
12	テーブルマナー ～和食～	下村	<p><学習内容>お箸の正しい使い方や器の取り方、各種料理のいただき方などを説明する。</p> <p><事前学習>食事の際に必要なマナーについて考えておくこと。(0.5時間)</p> <p><事後学習>学んだ作法を食事の際に活用しながら、基本的なマナーを身につけること。(0.5時間)</p>
13	テーブルマナー ～洋食～	宅間	<p><学習内容>テーブルマナーとは何か、予約の仕方、服装、メニューの構成をはじめナフキン・カトラリーの扱い方をコース料理に沿って解説する。</p> <p><事前学習>授業の前に洋食のテーブルマナーについて調べておくこと。(0.5時間)</p> <p><事後学習>日常の食事をととしてマナーが身につけられているか確認をすること。(1.0時間)</p>
14	美術・アート鑑賞	難波	<p><学習内容>現代の多様な芸術表現を鑑賞するなかで多様な価値観、考え方を学ぶ。また、アートセラピーについて学習する。</p> <p><事前学習>味のある作家や作品について調べておくこと。(1.0時間)</p> <p><事後学習>興味のある作家や作品について考えてみる。(1.0時間)</p>

15	アーティスティック 絵画レッスン	保坂	<p><学習内容>講師の美術活動よりお勧めのオリジナル絵画技法を体験する。創造の世界を楽しみながら広げ、個々の豊かな活動につなげる。</p> <p><事前学習>様々な分野のアートに触れておく。 (1.0時間)</p> <p><事後学習>受講したことを個々の活動にどう反映できるか考えてみる。(1.0時間)</p>
----	---------------------	----	--

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
体育実技		谷川 裕子		1	前期	実技	選択	1
		担当形態	複数	ナンバリング		CE1114		
		担当教員	松田晃二郎 石原勇次郎 田上友季也					
幼	科目	教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目						必修
	施行規則に定める科目区分 又は事項等	体育						
保	系列	教養科目・体育						必修
【キーワード】		【概要】						
1	教養科目	<p>「身体活動の楽しさや喜びを自ら体験するとともに、その喜びを他者にも提供できる」ことを目的とし、人とのコミュニケーションを含むさまざまな身体活動を行なう。高校までの体育で培った技能や経験は人により様々である、体育技能は多様性が表れやすいため、本授業は今までの技能のみには頼らない、多様性を認め、活かすチームワークづくりを目指すスポーツ・運動を行う。</p> <p>また運動が健康に与える影響について身を持って体験し、健康を維持していくための運動強度を学習する。自分自身の体力レベルを知るために簡易な測定法を用いて、実際に体力レベルを測定する。</p> <p>※理解度や進行度、施設の状況などにより、授業内容を変更することもある。</p>						
2	運動							
3	健康							
4	体力							
5	チームづくり							
【到達目標】		<p>1. 運動を通じて、自らの健康を維持・改善していくための資質や能力を養うことができる。</p> <p>2. 多様性を認め、活かしていくチームが作れる。</p> <p>3. 日常生活に運動を取り入れる習慣を身に付けることができる。</p>						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
【成績評価の方法】								
成績指標		受講態度			課題提出		合計	
評価割合 (%)		80			20		100	
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E		F	
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績		受験資格なし(出席回数不足)	
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0		0	

評語	評価の基準		
S	実技内容を十分に理解しており、積極的な参加活動が見られ尚且つ他者を理解に立った自己主張ができ、課題解決できる。		
A	実技内容を理解しており、積極的な参加が見られるものの、他者関係を良好に保ち、課題解決に達する。		
B	実技内容を総じて理解しているが、受動的な参加であり、自己表現に及ばないが課題を行うことができる。		
C	実技内容の概要を理解しており、実技、提出課題に対して最低限の参加があった。		
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 課題については返却時にコメントを付ける。			
【教科書】 資料配布			
【参考書・参考資料等】 随時紹介			
【関連科目】 「体育理論」			
【受講心得】 積極的に授業に参加し、学生として然るべき受講態度で臨むこと。 毎回、ジャージ、体育館シューズを着用のこと。			
【備考】 保育士課程必修、幼稚園教諭必修			
【学習項目】		担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション（身体ほぐしの運動）	全員	【学習内容】本授業の流れを説明、身体ほぐしをワークを行う。 【事前学習】シラバスを確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
2	体力測定	全員	【学習内容】体力測定（握力・反復横跳び・長座体前屈・立ち幅跳び）を行う 【事前学習】全国平均値を確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
3	体力測定	全員	【学習内容】体力測定（持久力）を行う 【事前学習】全国平均値を確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
4	体力測定	全員	【学習内容】体力測定の振り返りを行う 【事前学習】全国平均値を確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）
5	ニュースポーツ	全員	【学習内容】ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う 【事前学習】ルールを確認しておく（30分） 【事後学習】学習内容を振り返る（30分）

6	ニュースポーツ	全員	【学習内容】 ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う 【事前学習】 ルールを確認しておく (30分) 【事後学習】 学習内容を振り返る (30分)
7	ニュースポーツ	全員	【学習内容】 ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う 【事前学習】 ルールを確認しておく (30分) 【事後学習】 学習内容を振り返る (30分)
8	ニュースポーツ	全員	【学習内容】 ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う 【事前学習】 ルールを確認しておく (30分) 【事後学習】 学習内容を振り返る (30分)
9	ニュースポーツ	全員	【学習内容】 ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う 【事前学習】 ルールを確認しておく (30分) 【事後学習】 学習内容を振り返る (30分)
10	ニュースポーツ	全員	【学習内容】 ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う 【事前学習】 ルールを確認しておく (30分) 【事後学習】 学習内容を振り返る (30分)
11	ニュースポーツ	全員	【学習内容】 ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う 【事前学習】 ルールを確認しておく (30分) 【事後学習】 学習内容を振り返る (30分)
12	ニュースポーツ	全員	【学習内容】 ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う 【事前学習】 ルールを確認しておく (30分) 【事後学習】 学習内容を振り返る (30分)
13	ニュースポーツ	全員	【学習内容】 ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う 【事前学習】 ルールを確認しておく (30分) 【事後学習】 学習内容を振り返る (30分)
14	ニュースポーツ	全員	【学習内容】 ニュースポーツを行う。ルール理解と戦略を行う 【事前学習】 ルールを確認しておく (30分) 【事後学習】 学習内容を振り返る (30分)

15	まとめ	全員	<p>【学習内容】運動・スポーツを通して得られた経験をまとめる。</p> <p>【事前学習】今までの授業の総復習を行う（1時間）</p> <p>【事後学習】本授業で得られた知識を今後の活動に活かせるようまとめる（1時間）</p>
----	-----	----	--

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
倫理学		石橋 孝明		1	後期	講義	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング		CE1101		
		担当教員	石橋 孝明					
幼	科目							
	施行規則に定める科目区分 又は事項等							
保	系 列							
【キーワード】		【概要】						
1	生命倫理	人間だけが自覚的に生き、そして死んでいく。では、わたしたちは、どのように生き、死んでいこうとするのか。よく生き、よく死ぬことを目指すのではないだろうか。本講義では、このよく生き、よく死ぬことを、具体的な場面を設定することで考察し、生命の問題を倫理的視点のもとに考えていく。そして、このことを通して、倫理学の諸問題について考える。具体的事例としては、1970年代以降アメリカを中心に形成された「生命倫理学」の諸問題などを挙げて講義する。						
2	人権							
3	生							
4	死							
5	労働							
【到達目標】		1. 人権について倫理的視点から問うことができる。 2. 生と死について倫理的視点から問うことができる。 3. 自ら考え、問題を解決していくことができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
【成績評価の方法】								
成績指標	定期試験			課題への取組			合計	
	60			40			100	
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		

評語	評価の基準	
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。	
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。	
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。	
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
課題提出の次の授業で提出された内容についてコメントする。		
【教科書】		
なし		
【参考書・参考資料等】		
『よく生き、よく死ぬための、生命倫理学』 篠原・石橋 編 ナカニシヤ出版 その他は講義中に指示する。		
【関連科目】		
【受講心得】		
ノート講義（パワーポイント使用）、筆記用具を持参し、受講中は私語・携帯電話操作等をせず、授業に集中すること。 学生との相談・授業の進行状況により授業計画の一部変更もありうる。		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション 倫理学とは何か	<学習内容>資料を配布しパワーポイントで倫理学とは何か、そしてどのようなテーマについて授業をしていくのか等について説明する <事前学習>シラバスを見て授業内容がどのようなものになるのか考えてくる（1時間） <事後学習>授業中に配布した資料を見直して本日の授業を振り返る（1時間）
2	人権について考える（1）問題提起	<学習内容>人権はどのようにして確立されてきたかを歴史的に振り返り、人権についてどのような主張がなされているかを例を挙げて説明し問題提起する <事前学習>人権とは何かを自分なりに下調べしてくる（1時間） <事後学習>授業中に配布した資料を見直して本日の授業を振り返る（1時間）
3	人権について考える（2）性同一性障害	<学習内容>性同一性障害の人権問題を考える、同時にLGBTの権利主張についても考える <事前学習>性同一性障害について自分なりに下調べしてくる（1時間） <事後学習>授業中に配布した資料を見直して本日の授業を振り返る（1時間）
4	人権について考える（3）いじめ	<学習内容>いじめについて子どもたちの心理状態や発生機序、保護者や教員が見過ごしやすい理由などについて考える <事前学習>いじめについて自分なりに下調べしてくる（1時間） <事後学習>授業中に配布した資料を見直して本日の授業を振り返る（1時間）
5	人権について考える（4）死刑制度	<学習内容>人を殺すことについての倫理的考察を行ない、死刑制度についての賛否両論について考える <事前学習>死刑制度について自分なりに下調べをしてくる（1時間） <事後学習>授業中に配布した資料を見直して本日の授業を振り返る（1時間）

6	生命について考える (1) 生殖医療	<p><学習内容>出生前診断や着床前診断、遺伝子治療、人工妊娠中絶、優生学、胚の倫理的・法的権利等、生殖医療にかかわる諸問題について考察する</p> <p><事前学習>生殖医療について自分なりに下調べしてくる (1時間)</p> <p><事後学習>授業中に配布した資料を見直して本日の授業を振り返る (1時間)</p>
7	生命について考える (2) 臓器移植	<p><学習内容>臓器移植医療における人間観について考える、科学的人間観とは何かが見えてくるだろうし、私とは何かについて考えさせてくれる</p> <p><事前学習>臓器移植医療について自分なりに下調べしてくる (1時間)</p> <p><事後学習>授業中に配布した資料を見直して本日の授業を振り返る (1時間)</p>
8	生命について考える (3) 安楽死・尊厳死	<p><学習内容>終末期医療の問題について考察する。安楽死、尊厳死、ホスピスについてその内容を説明し、自らのそして家族の終末について考える</p> <p><事前学習>安楽死、尊厳死、ホスピスについて調べてくる (1時間)</p> <p><事後学習>授業中に配布した資料を見直して本日の授業を振り返る (1時間)</p>
9	生命について考える (4) ブタがいた教室 (ビデオ鑑賞)	<p><学習内容>小学校高学年の総合的学習の時間でなされた「ブタを飼いそれを食べるという取り組み」のビデオを観ることで、生命について考える</p> <p><事前学習>自分が教師なら、あるいは小学生ならこの取り組みをやるかどうかを色々な観点から考えてくる (1時間)</p> <p><事後学習>授業中に配布した資料に自分の意見をまとめる (1時間)</p>
10	生命について考える (5) ブタがいた教室 (討議)	<p><学習内容>ビデオを観てまとめてきたことを発表しあい、共通の注目点について議論を深めていく</p> <p><事前学習>自分でまとめた内容について要点を発表できるようにしておく (1時間)</p> <p><事後学習>議論したことをもう一度自分なりに考えてみる (1時間)</p>
11	働くことについて考える (1) 働くことの意味	<p><学習内容>私たちはなぜ働くのかを考える。働くことは自分にとってどんな意味があるのか、そして働くことは対他関係の中でどんな意味をもつのかを考える</p> <p><事前学習>私たちはなぜ働くのか自分なりに考えてくる (1時間)</p> <p><事後学習>授業中に配布した資料を見直して本日の授業を振り返る (1時間)</p>
12	働くことについて考える (2) 保育士・幼稚園教諭として働く	<p><学習内容>保育士・幼稚園教諭として働くことを、前回の授業を踏まえて、様々な視点から考えていく</p> <p><事前学習>自らが就こうとしている仕事の、自分にとっての意味、社会の中での意味を考えてくる (1時間)</p> <p><事後学習>授業中に配布した資料を見直して本日の授業を振り返る (1時間)</p>
13	生きることと死ぬこと (1) 私の中のあなた (ビデオ鑑賞)	<p><学習内容>姉を助けるためにデザイナーベビーとして生まれた妹の反乱をめぐる家族の葛藤について、ビデオを観ることで生きること死ぬことについて考える</p> <p><事前学習>生殖医療の時間に扱ったデザイナーベビーのことを振り返り、自分の身に置き換えて考えてくる (1時間)</p> <p><事後学習>授業中に配布した資料に自分の意見をまとめる (1時間)</p>
14	生きることと死ぬこと (2) 私の中のあなた (討議)	<p><学習内容>ビデオを観てまとめてきたことを発表しあい、共通の注目点について議論を深めていく</p> <p><事前学習>自分でまとめた内容について要点を発表できるようにしておく (1時間)</p> <p><事後学習>議論したことをもう一度自分なりに考えてみる。(1時間)</p>

1 5	講義の振り返り		<p><学習内容>これまでの講義のポイントを振り返り、とりわけ関心の持てたテーマについてタイトルを付し、論述する。時間がくるまでいくつかのテーマについて論じる</p> <p><事前学習>配布した資料を見返して、これまでの授業でどんなことを考えたか振り返ってくる (1時間)</p> <p><事後学習>授業中に論じた内容を推敲する (1時間)</p>
1 6	試験		

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
文章表現法		平嶋 一臣		1	後期	講義	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング		CE1104		
		担当教員	平嶋 一臣					
幼	科目	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系列							
【キーワード】		【概要】						
1	文脈と文章	授業計画に添い、さまざまな『文章表現』の方法を学ぶ。授業中は積極的に自己表現するための文章づくりの場を設定する。また、毎回の授業後400字～800字のレポート提出を求める（添削をして次週の授業で返却）。						
2	国語表現							
3	日本語							
4	表現方法							
5	国語文法							
【到達目標】		1. 良い文章づくりのための『多読』『多作』『多思』の習慣を持つことができる。 2. 様々な文例を通して、より正確で分かり易い文章構成を行うことができる。 3. 自分の考えを、論理的な文章に組み立て、外に向かって積極的に表現することができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】		関連性						
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。		○						
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。		○						
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
【成績評価の方法】								
成績指標	定期試験		課題レポート			合計		
評価割合 (%)	70		30			100		
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		

評語	評価の基準	
S	講義内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。	
A	講義内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。	
B	講義内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。	
C	講義内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】 毎時間課題レポートを提出する。次週の初めに添削した課題を返却し、その反省点に立ち本時のスタートとする。		
【教科書】 平嶋一臣編・著『講義資料』より、必要に応じてプリント・配布する。		
【参考書・参考資料等】 『日本語』 金田一春彦 岩波新書 『文章の書き方』 辰濃和男 岩波新書		
【関連科目】		
【受講心得】 授業に集中し、毎回時間内に小レポートを提出する。 また、意見発表に積極的に取り組むこと。進行状況により授業計画の一部変更もありうる。		
【備考】 事前学習のために、積極的に図書館を利用する。 毎回の授業に、平嶋式文章検定2級レベル・漢字検定2・3級レベルの小テストを計7分間挿入する。 また、授業後提出する400字～800字のレポートをもって当日の出席確認とする。		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1	オリエンテーション・文章表現のさまざま	<学習内容>授業中の約束事を連絡した後、15回の授業の概要を説明し、基本的な事前・事後の学習について説明する。 <事前学習>15回分の講義要項（シラバス）に目を通し、質問内容をまとめておく（0.5時間） <事後学習>15回の講義要項の概要を確認しておく（0.5時間）
2	日本語の成り立ちについて①	<学習内容>表音・表意のどちらも兼ねている特殊な国語である日本語の特徴を理解するとともに、国字の種類を知る。 <事前学習>漢字・国字の違いを調べ、あらかじめ国字について10個以上調べ、その成り立ちと特徴を調べておく。（1時間） <事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）
3	日本語の成り立ちについて②	<学習内容>漢字を日本語読みにする時に起こる多拍化について理解するとともに、擬音語・擬態語の特徴を知る。 <事前学習>擬音語・擬態語を調べ、その成り立ち別に分類しておく。（1時間） <事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）
4	日本語の特質を知る①	<学習内容>漢字発祥の中国をはじめ、西洋・米国から移入した文字に和語が重なって出来ていった、日本語の語彙の多さについて再確認する。 <事前学習>漢語・和語・外来語について、その意味と具体例を調べておく。（1時間） <事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。（1時間）

5	日本語の特質を知る②	<p><学習内容>自然と密接なつながりをもって成立していった日本語の特質および俳句・和歌などとの関連を知る。</p> <p><事前学習>自然を詠った俳句・和歌について、人口に膾炙されているものを事前に調べておく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
6	論理的な文章に学ぶ①	<p><学習内容>単文・複文の型を知るとともに「ねじれ文」の起こりやすい文章(場面)を再確認する。</p> <p><事前学習>(1時間)毎時返却された自分のレポート中から、自分の文型の特徴を調べておく。</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
7	論理的な文章に学ぶ②	<p><学習内容>序破急・起承転結文など、論説文の基本型を学ぶとともに、これまでの自分の提出レポートは、相手に伝わりやすい文章だったのか、様々な角度から検証する。</p> <p><事前学習>毎時返却した自分のレポートを読み、朱書き添削された部分から、自分の文章の特徴に気づく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
8	論理的な文章に学ぶ③	<p><学習内容>序破急・起承転結文のいずれかを選択し、与えられた課題について、600～800字程度でねじれ文の無い論旨明快な小論を書く。</p> <p><事前学習>図書館にある多くの書籍から小論を読み、参考になる小論構成について意見を持つ。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
9	ビジネス文書の基本を学ぶ	<p><学習内容>日本語における敬語表現・ビジネス語表現の基本を知るとともに、具体的な使用方法について確認する。</p> <p><事前学習>ビジネス用語・ビジネス表現について、どのようなものが有るのか調べておく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
10	自己推薦文を書く	<p><学習内容>将来の就職試験を想定し、自己アピールのポイントを確認し、600字程度の自己推薦文を書く。</p> <p><事前学習>自分の長所・短所について様々な角度から分析し、自己推薦に繋げていくかを立案しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
11	手紙文に学ぶ	<p><学習内容>手紙文・葉書文の基本形式を知るとともに、実際の場面での使用方法について理解する。</p> <p><事前学習>これまでに受け取った手紙・葉書を読み直し、そこに見られる日本文の特徴を知っておく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>

1 2	エッセイに学ぶ	<p><学習内容>最近身の回りに起こった事例を再確認し、周りの友人にそのことを伝える文章を600字程度で表現する。</p> <p><事前学習>エッセイ集や新聞のコラムから、自分の気に入った文章を選び、その優しく訴える文章を学んでおく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
1 3	詩・短歌（和歌）・俳句に学ぶ	<p><学習内容>日本語における詩・短歌（和歌）・俳句の美しさや調べを学ぶとともに、純真学園やキャンパスをテーマに、自分の作品を創る。</p> <p><事前学習>最近の新聞の文芸欄から、自分の印象に残っている詩・短歌（和歌）・俳句を読み込んでおく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
1 4	幼児・児童向けの短編童話づくり①	<p><学習内容>幼児・児童向けの童話を書くにあたり、全体をどのように構成するか、そのプロットを作成する。</p> <p><事前学習>図書館にある幼児・児童向けの童話を読み、その特徴を掴んでおく。(1時間)</p> <p><事後学習>返却された提出レポート中の添削部分を再度点検・復習し、修正または新たな意見・質問を持つ。(1時間)</p>
1 5	幼児・児童向けの短編童話づくり②	<p><学習内容>前時に作成した幼児・児童向けの童話のプロットを基に、童話を完成させる。</p> <p><事前学習>童話を完成するにあたり、幼児にもわかる言葉で書いているか、あらかじめ点検しておく。(1時間)</p> <p><事後学習>15回の授業を振り返るとともに、次回定期試験に向け、『文章表現法』の基本的事項を再点検し復習しておく。(1時間)</p>
1 6	定期試験	<p>15回の授業を終え、授業理解全体の再確認をする。</p>

科目名		担当代表教員		学年	期別	形態	必選	単位数
ビジネスマナー (こども学科)		大石 紀子		1	後期	演習	選択	2
		担当形態	単独	ナンバリング		CE1111		
		担当教員	大石 紀子					
幼	科目	施行規則に定める科目区分 又は事項等						
保	系列							
【キーワード】		【概要】						
1	コミュニケーション	1. 社会で必要とされる言葉づかいや立ち居振る舞いをはじめ、ビジネスマナー全般を座学だけでなく多くの演習をとおして習得することで、信頼される社会人となることを目指す。 また円滑な人間関係を築きあげ、仕事をしやすい環境を自らで作り上げることができることを学ぶ。 2. 就職活動に際して必要なマナーも習得する。						
2	言葉づかい							
3	応対							
4	電話応対							
5	文書作成							
【到達目標】		1. 社会人として求められる心構えとビジネスマナーを理解し活用することができる。 2. 就職活動の際に必要なマナーを知り、内定に繋げる。 3. 「知っている」ではなく「常に実践できる」ことができる。						
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】								関連性
【知識・理解・技能】								
1. 保育・教育に必要な専門的知識を修得している。								
2. 子どもの心身の発達特性や健康について理解している。								
3. 保育・教育の実践的な技能を身に付けている。								
【思考・判断・表現】								
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。								○
2. 保育者として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。								
3. 保育・教育の意図やねらいを、保育実践を通して表現することができる。								
【関心・意欲・態度】								
1. 子どもを取り巻く社会の現状に関心を持っている。								○
2. 保育・教育に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。								○
3. 子どもの権利と最善の利益を尊重する態度を身に付けている。								
【成績評価の方法】								
成績指標	定期試験			受講態度			合計	
評価割合 (%)	80			20			100	
【成績評価の基準】								
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下			
評語	S	A	B	C	E	F		
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし (出席回数不足)		
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0		

評語	評価の基準	
S	授業内容を十分に理解しており、設問に対して必要な内容を的確に記述した解答である。	
A	授業内容を理解しており、設問に対して必要な内容を十分に記述した解答である。	
B	授業内容を総じて理解しているが、設問に対して不十分な内容の解答である。	
C	授業内容の概要を理解しており、設問に対して最低限の評価が可能な解答である。	
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】		
試験終了後は模範解答をもとに間違えた箇所を見直し、正しいマナーを理解する。		
【教科書】		
『よくわかる 自信がつくビジネスマナー』（改訂3版）著作/制作 富士通エフ・オー・エム株式会社		
【参考書・参考資料等】		
補足資料として適宜プリント配布		
【関連科目】		
【受講心得】		
授業中からマナーを意識し、教室内では社会人であるという心構えで受講して下さい。 講義中には数多くの実技演習があります。マナーは体得することが大切ですから積極的に取り組みましょう。		
【備考】		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 オリエンテーション		【学習内容】 マナーを学ぶ意義について考えます。現段階で社会人基礎力の自己評価を行い、これからの授業における自分自身の課題（学びたいこと）を明確にします。 【事前学習】 テキストP5～P6を読み、マナーの必要性を考える。（0.5時間） 【事後学習】 初回の授業を振り返り、身に付けるべき力は何かを自分の課題として考える。
2 身だしなみ・挨拶・立ち居振る舞い		【学習内容】 人に与える第一印象というのはとても重要です。印象の良し悪しがもたらすメリット・デメリットを考えながら、具体的に好感度を与える挨拶や立ち居振る舞いを実践形式で体得します。 【事前学習】 テキスト第1章P7～P22を読み、身だしなみについて知りたいこと（質問）を考えておく（0.5時間） 【事後学習】 日常生活のなかで実践する（常時）
3 言葉づかいと敬語の基礎		【学習内容】 バイト敬語や不適切な言葉づかいなど日頃気が付かずによく使っていて不快感を与えてしまう言葉が多くあります。これらの間違った言葉づかいを理解して、適切な言葉づかいができるように学びます。 【事前学習】 テキストP31～P35を読む（0.5時間） 【事後学習】 日常生活の中で実践する（常時）
4 敬語の正しい使い方（基本）		【学習内容】 敬語にはいくつかの種類があります。相手や状況に合わせて適切な言葉づかいができるように事例を用いながら基本を学びます。 【事前学習】 テキストP36～P37を読む（0.5時間） 【事後学習】 テキストP41に記入して復習（0.5時間）
5 敬語の正しい使い方（実践）		【学習内容】 基本編で学んだ内容を実際のような様々なシーンで活用できるように実践形式で学びます。また、上司や先輩から受けた指示の受け方や報告・連絡・相談の仕方についても社会人として受答えができるように学習します。 【事前学習】 テキストP42～P44を読む（0.5時間） 【事後学習】 テキストP45を活用して復習（0.2時間）

6	電話応対（1）	<p>【学習内容】 社内での電話の取り次ぎ方など対応のポイントを実践を交えて学びます。</p> <p>【事前学習】テキストP85～P88を読み、実践問題の練習もしておく（0.5時間）</p> <p>【事後学習】テキストP97実践問題を解く（0.5時間）</p>
7	電話応対（2）	<p>【学習内容】 短時間で相手に用件をわかりやすく伝える電話のかけ方を練習します。仕事においては伝言を依頼する場合がありますから、トラブルに繋がらないように正確に伝えるポイントも学びます。</p> <p>【事前学習】テキストP89～91を読む（0.5時間）</p> <p>【事後学習】テキストP101確認問題を解き復習をする（0.5時間）</p>
8	就職活動で必要な電話のマナー	<p>【学習内容】 就職活動において企業と電話でやりとりをする機会が多くなります。大切な事項を聞き逃さず、また自分の伝えたいことも失礼のない言葉づかいで話せるように事例を使いながら学びます。</p> <p>【事前学習】特になし</p> <p>【事後学習】自分用の就活電話スクリプトを作る（0.5時間）</p>
9	訪問時・来客時のマナー	<p>【学習内容】 相手の会社への訪問時や来客時に必要なマナーを説明します。事前の準備や当日の心構え、応接室でのマナーなどを学びます。</p> <p>【事前学習】テキストP61～P82を読んでおく（1時間）</p> <p>【事後学習】テキストP83確認問題を解く（0.5時間）</p>
10	はがきの書き方	<p>【学習内容】 日々の業務の中では文書を作成することが多々あります。文書作成の基本をはがきの作成をとおして学びます。</p> <p>【事前学習】特になし</p> <p>【事後学習】授業内で作成するはがきの完成（0.5時間）</p>
11	ビジネス文書	<p>【学習内容】 前回の授業（はがき）で学んだことを基本に社内外で必要とされる文書作成を学び、実際に作成します。基本的な形式や表現を身に付けます。</p> <p>【事前学習】テキストP148～P154を読んでおく（0.5時間）</p> <p>【事後学習】保護者向け文書の完成（0.5時間）</p>
12	メールの知識と書き方	<p>【学習内容】 メールは便利ですが小さなミス一つで周囲に多大な迷惑をかけてしまうこともあり、注意が必要です。ここでは書き方のポイントや基本的なマナーを学びます。</p> <p>【事前学習】テキストP110～P112を読む（0.5時間）</p> <p>【事後学習】テキストP121を解いて復習する（0.5時間）</p>
13	就職活動で必要なメールの書き方	<p>【学習内容】 就職活動中に相手企業とメールのやりとりをする時の注意を説明し、具体的に作成します。</p> <p>【事前学習】短大で配布される資料の該当ページに目を通しておく（0.5時間）</p> <p>【事後学習】実際に使えるように下書きを作る（0.5時間）</p>
14	面接のマナーと面接礼状	<p>【学習内容】 就職面接においてもマナーや印象は大切です。相手に好印象を与えるポイントを学び、また面接の礼状についても作成し活用実践で活用できるようにします。</p> <p>【事前学習】短大で配布される資料の該当ページに目を通しておく（0.5時間）</p> <p>【事後学習】面接礼状を完成させる（0.5時間）</p>

1 5	交流分析を使った自己理解	<p>【学習内容】 良好な人間関係を築くためには良好なコミュニケーションが欠かせません。対人の際に自分にはどのような言動特性があるのかを自身で把握し、これからは役に立ちます。</p> <p>【事前学習】コミュニケーションについて自分の強みと弱みを考える (0.5時間)</p> <p>【事後学習】日常生活のなかで自分の課題を改善していく (常時)</p>
1 6	試験	<p>【学習内容】 これまでの総括。学んだ内容がどのくらい習得できているかをテストする。</p> <p>【事前学習】全15回の復習をする (2時間～)</p> <p>【事後学習】誤った箇所の見直し</p>

科目名	担当代表教員	学年	期別	形態	必選	単位数
純真ゼミナールⅡ	都築 廣久	1	後期	演習	必修	1
	担当形態	複数		ナンバリング	FN1113	
	担当教員	食物栄養学科教員全員、こども学科教員全員、 猿渡 君代、大濱 香、大石 紀子				
【キーワード】	【概要】					
1 学園訓	<p>本学は、時代の要望に即応し、高い知性と豊かな情操をもって、社会、家庭に歓迎され、敬愛される良識ある人材を育成する事を目的として設立された。この設立趣旨を理解するためには、建学の精神の中身をお互いに共有することが重要である。そこで本演習では、本学がかかげる「気品」、「知性」、「奉仕」の建学の精神を具現化していくための諸テーマを中心にして、全人格形成の涵養を図ることを目標とする。</p>					
2 建学の精神						
3 気品						
4 知性						
5 奉仕						
【到達目標】	<p>1. 茶道・着付により「気品」を醸成させていくことができる。 2. 有識者の講演の聴講などにより「知性」を練磨させていくことができる。 3. ボランティアの清掃活動への参加により「奉仕」の精神を高揚させていくことができる。</p>					
【学科の卒業認定・学位授与の方針との関連】						関連性
【知識・理解・技能】						
1. 栄養と健康に必要な専門的知識を修得している。						
2. 望ましい健康的な食生活の実践について理解している。						
3. 食事作りに関する実践的な技能を身に付けている。						
【思考・判断・表現】						
1. 多面的な視点から問題を解決する対応方策を考えることができる。						
2. 食と栄養の専門家として実行すべきことを実態に照らして判断し、選択することができる。						
3. 健康増進の意図やねらいを、栄養指導を通じて表現することができる。						
【関心・意欲・態度】						
1. 食を取り巻く社会の現状に関心を持っている。						
2. 給食管理に責任感を持って、協働して取り組もうとする意欲を持っている。						
3. 食を通じた健康づくりを尊重する態度を身に付けている。						
【成績評価の方法】						
成績指標	取り組み姿勢		課題・提出物		合計	
評価割合 (%)	60		40		100	
【成績評価の基準】						
評価	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59点以下	
評語	S	A	B	C	E	F
内容	特に優れた成績	優れた成績	概ね良好な成績	合格の最低限度を満した成績	合格に至らない成績	受験資格なし(出席回数不足)
GP	4.0	3.0	2.0	1.0	0	0
評語	評価の基準					
S	各講座に極めて積極的に取り組み、課題・提出物にも必要な内容を的確に記述している。					
A	各講座に積極的に取り組み、課題・提出物に必要な内容を十分に記述している。					
B	各講座に積極的に取り組んでいるが、課題・提出物に必要な内容の記述が不十分である。					
C	各講座に取り組んでいるが、課題・提出物が必要最低限の内容の記述である。					
【課題（試験・レポート等）に対するフィードバックの方法】	取り組み姿勢と課題・提出物に関するコメントを返却する。					

【教科書】 特に指定しない。適宜資料を配付する。		
【参考書・参考資料等】 特に指定しない。		
【関連科目】 「純真ゼミナールⅠ」「ビジネスマナー」		
【受講心得】 主に班単位で受講するため、お互いに協力して、自ら積極的に活動に取り組むこと。		
【備考】 卒業必修		
【学習項目】	担当	学習内容、事前・事後学習（学習時間）
1 キャリアガイダンス（1） ～外部講師講話～	松藤・ 外部 講師	<学習内容>「自己分析を進める上のポイントについて」と題する外部講師による講和を聴く。 <事前学習>就職ガイドブックに目を通しておくこと。（0.5時間） <事後学習>自己分析の振り返りをする。 （0.5時間）
2 キャリアガイダンス（2） ～外部講師講話～	松藤・ 外部 講師	<学習内容>「就職活動開始に向けた心構え」と題する外部講師による講和を聴く。 <事前学習>就職ガイドブックに目を通しておくこと。（0.5時間） <事後学習>講演から学んだことを復習しておくこと。（0.5時間）
3 茶道	猿渡	<学習内容>和室での礼法やマナーに則って、お客様をお招きして、おもてなしの心を感じ取る。 <事前学習>和室での歩き方などを調べておくこと。（0.5時間） <事後学習>ご挨拶等でのお辞儀の仕方など、学んだことを実践に移してみる。 （0.5時間）
4 着付け	大濱	<学習内容>浴衣の着方の学習、基本の帯結び、立ち居振る舞いについて学ぶ。 <事前学習>着物、浴衣の成り立ち、洋服との違いについて調べておくこと。（0.5時間） <事後学習>浴衣、帯のたたみ方、着付け用具の扱い方について復習しておくこと。（0.5時間）
5 キャリアガイダンス（3） ～外部講師講話～	松藤・ 外部 講師	<学習内容>「履歴書作成について」と題する外部講師による講和を聴くとともに、特に『学歴』『資格・免許』などを実際に作成する。 <事前学習>就職ガイドブックに目を通しておくこと。（0.5時間） <事後学習>履歴書を完成すること。（0.5時間）
6 護身術（1）	外部 講師	<学習内容>周囲の犯罪や災害などから自分や他人の生命・身体を守るための知識、技術、方法や、危険に近づかない知識や技術を現役の警察署員の方から学ぶ。 <事前学習>護身術について調べておくこと。（0.5時間） <事後学習>護身術の所作を復習しておくこと。（0.5時間）
7 護身術（2）	外部 講師	<学習内容>周囲の犯罪や災害などから自分や他人の生命・身体を守るための知識、技術、方法や、危険に近づかない知識や技術を現役の警察署員の方から学ぶ。 <事前学習>前回の護身術の所作を確認しておくこと。（0.5時間） <事後学習>新たな護身術の所作を復習しておくこと。（0.5時間）

8	学士基礎力講座 (1) ～漢字～	都築	<p><学習内容>漢字に関する読み方、同音異義語、対義語、類義語、書き取り、部首と部首名、熟語の組み立て、四字熟語に関する練習問題に取り組む。</p> <p><事前学習>同音異義語、対義語、類義語、四字熟語について調べておくこと。(0.5時間)</p> <p><事後学習>当日取り組んだ練習問題を復習しておくこと。(0.5時間)</p>
9	学士基礎力講座 (2) ～漢字検定～	都築	<p><学習内容>公益財団法人日本漢字能力検定協会が実施する日本漢字能力検定準2級の過去問題に取り組む。</p> <p><事前学習>日本漢字能力検定準2級の内容について調べておくこと。(0.5時間)</p> <p><事後学習>当日取り組んだ過去問題を復習しておくこと。(0.5時間)</p>
10	人権論・人間論講演会	平嶋	<p><学習内容>古典落語『あたま山』を分析しつつ、他者への思いやり不足がやがて相手の人権無視に繋がることになることを学ぶ。</p> <p><事前学習>これまでに受けた人権学習を振り返り、人権意識の低さがどこから生まれるのか、まとめておく。(1.0時間)</p> <p><事後学習>「人間関係性」「気づき」をキーワードに、日々の生活に人権意識を忘れない自分づくりに励む。(1.0時間)</p>
11	履歴書作成 (1)	大石	<p><学習内容>就職活動に必要な履歴書の書き方(基本)を学びます。</p> <p><事前学習>保有している資格の正式名称と取得時期について予め調べておいてく(0.5時間)</p> <p><事後学習>授業内で書けなかった箇所を2回目までに仕上げる(1時間)</p>
12	履歴書作成 (2)	大石	<p><学習内容>履歴書の中でも書くのが難しいと言われる「自己PR」と「志望動機」について説明し、作成をします。</p> <p><事前学習>事前に行なわれる純真ゼミナール「自己分析」の資料を振り返り、自己の強みや個性について考えておく(1時間)</p> <p><事後学習>履歴書を完成させキャリアセンター・就職係に提出をする(1時間)</p>
13	奉仕活動 (1) ～清掃活動～	全教員	<p><学習内容>奉仕活動の一環として、西鉄大橋駅東口周辺を中心とした清掃活動を行う。</p> <p><事前学習>社会奉仕、勤労奉仕、無償奉仕、奉仕作業、ボランティアに関して調べておくこと。(0.5時間)</p> <p><事後学習>奉仕活動(清掃活動)の意義を振り返ること。(0.5時間)</p>
14	キャリアガイダンス (4) ～外部講師講話～	松藤・外部講師	<p><学習内容>「将来の夢を達成するために必要な事」と題する外部講師による講和を聴く。</p> <p><事前学習>将来の夢・目標を考えておくこと。(0.5時間)</p> <p><事後学習>講演から学んだことを復習しておくこと。(0.5時間)</p>
15	奉仕活動 (2) ～清掃活動～	全教員	<p><学習内容>奉仕活動の一環として、西鉄大橋駅西口周辺を中心とした清掃活動を行う。</p> <p><事前学習>社会奉仕、勤労奉仕、無償奉仕、奉仕作業、ボランティアに関して調べておくこと。(0.5時間)</p> <p><事後学習>奉仕活動(清掃活動)の意義を振り返ること。(0.5時間)</p>